



偉大な作家 司馬遼太郎 坂本龍馬に馳せた思い



司馬遼太郎氏は私の高校の大先輩にあたり、直木賞、文化勲章を受賞した日本を代表する作家です。司馬氏は大阪大学外国学部蒙古語学科を卒業後、産経新聞記者を経て、歴史小説家として旺盛な活動を本格化させました。

坂本龍馬や新撰組副長*土方歳三がこれほど有名になったのは、司馬氏の著書『龍馬がゆく』や『燃えよ剣』がベストセラーになったからであり、明智光秀がそれまでの逆賊イメージから、武将としての相対的評価を受けるようになったのも、司馬氏の著書『国盗り物語』に拠る所が大きいと思います。そういう意味で日本人の歴史観を大きく変えた人とも言われています。

私は高校生の頃、父に司馬氏の著書を読んで感想を述べた所、国語国文学の教員だった父は司馬氏と交流があり、司馬氏が私の自宅至近の大阪上本町駅より、近鉄線で5駅目の河内小阪に居た事から、興味があるなら司馬氏を紹介しようと何度か誘ってくれました。しかし中学生の頃から政治家を目指していた私は、父に依頼する事なく、結局出会う機会はありませんでした。

『龍馬がゆく』は、近代日本の扉を大きく開いた青年、龍馬の短く激しく燃えた生涯を描く大歴史ロマンです。黒船の出現で揺れ動く時代、土佐藩を脱藩した龍馬は薩長連合を成立させ、ついには徳川慶喜に大政奉還を決断させます。この作品の影響は大きく、NHK大河ドラマや、民放各局でも度々放映され、現在の龍馬像は、この本によって形作られたと言われています。

情報技術でビジネスや働き方を革新するデジタルトランスフォーメーション(DX)、ワークスタイルの変化に伴うコミュニケーションツールの展開や、名刺や請求書など紙媒体で管理されている情報の電子データ化など、DX導入により社会や生活の形、スタイルが変わります。働き方改革や労働人口の減少、コロナ禍による生活環境の急変を受けて注目が集まっています。

龍馬は沢山の人物に出会い見聞を広めた結果、多数の選択肢の中から最善と思われる方向を選びました。DXなど社会変革に対する取組みは龍馬の先駆性やベンチャースピリットが参考になります。司馬氏の龍馬に馳せた思いから、DXは手段であって、その目的が何なのかを明確にさせたいですね。

令和5年7月1日



偉大な作家 司馬遼太郎 自分だけが苦しい訳ではない



司馬遼太郎氏は私の高校の大先輩にあたり、直木賞、文化勲章を受賞した日本を代表する作家です。司馬氏は大阪大学外国学部蒙古語学科を卒業後、産経新聞記者を経て、歴史小説家として旺盛な活動を本格化させました。

坂本龍馬や新撰組副長*土方歳三がこれほど有名になったのは、司馬氏の著書『龍馬がゆく』や『燃えよ剣』がベストセラーになったからであり、明智光秀がそれまでの逆賊イメージから、武将としての相対的評価を受けるようになったのも、司馬氏の著書『国盗り物語』に拠る所が大きいと思います。そういう意味で日本人の歴史観を大きく変えた人とも言われています。

私は高校生の頃、父に司馬氏の著書を読んで感想を述べた所、国語国文学の教員だった父は司馬氏と交流があり、司馬氏が私の自宅至近の大阪上本町駅より、近鉄線で5駅目の河内小阪に居た事から、興味があるなら司馬氏を紹介しようと何度か誘ってくれました。しかし中学生の頃から政治家を目指していた私は、父に依頼する事なく、結局出会う機会はありませんでした。

『燃えよ剣』は、土方の生涯を描き、テレビドラマ、映画、舞台など様々なメディアで翻案されています。新撰組は、明治維新体制下では逆賊と見なされ、まともに顧みられなかったのが、『燃えよ剣』の登場によって再評価の機運が生まれ、今日に至る迄の人気が決まってきたのです。以後新撰組にまつわる作品は、本作で作られたイメージに大きな影響を受けています。

司馬氏は、自分が主人公に対して持つ共感を読者と主人公の関係に延長し、ストーリーの中に読者を巻きこんでゆく手法をとります。リオ五輪カヌーラローム銅メダルの羽根田卓也氏は、『燃えよ剣』が愛読書で、土方について打算なく筋の通った生き方をして、最後迄自分の信念を貫き通した所に惹かれると述べています。己の道を貫いた生き様がとても心に響きます。

辛く苦しい日々は、永遠に続く訳ではありません。どんなことでも変わりゆくものです。そこで辛い時に思い出したい事が、苦しいのは自分だけではないという事です。苦しい時、必ず仲間がいる。そう思えば力が湧いて来ます。司馬氏は土方の生き様を読者に伝え、そう鼓舞している様に思います。

花園保育園 (K)

For parents



偉大な作家 司馬遼太郎

土を踏み 風に聴き 声と出会う



司馬遼太郎氏は私の高校の大先輩にあたり、直木賞、文化勲章を受賞した日本を代表する作家です。司馬氏は大阪大学外国学部蒙古語学科を卒業後、産経新聞記者を経て、歴史小説家として旺盛な活動を本格化させました。

私は高校生の頃、父に司馬氏の著書を読んで感想を述べた所、国語国文学の教員だった父は司馬氏と交流があり、司馬氏が私の自宅至近の大阪上本町駅より、近鉄線で5駅目の河内小阪に居た事から、興味があるなら司馬氏を紹介しようと何度か誘ってくれました。しかし中学生の頃から政治家を目指していた私は、父に依頼する事なく、結局出会う機会はありませんでした。

『街道をゆく』は、書籍にして全43巻を数え、作品の大部分がNHKで映像化されています。司馬氏が辿った街道は、国内は北海道から沖縄迄、海外はアイルランド、オランダ、モンゴル、台湾に及んでいます。日本民族と文化の源流を探り、風土と人々の暮らしの関わりを訪ねる旅です。それは日本人の祖形、国家、文明、民族とは何かという問いへと紡がれていきます。

2022年の出生率が過去最低となりました。出生数は、100万人だった2015年から7年間で2割も減少しています。低出生率が常態化すると、出産できる病院や児童施設など、子育てに不可欠な社会インフラが維持出来なくなります。子供の少ない事が当たり前の社会となる事が人々の意識に影響して、出産への意欲を低下させ、更に少子化を加速するようになります。

若年人口は今後も減って行く見通しです。手をこまねいていたら、人口減少が深刻化し国力は衰退して行きます。経済の低成長の中で子育て世帯の負担感が増している事や、コロナ禍の影響で婚姻数が急激に落ち込んでいるのが原因です。少子化を反転させるには、子育て中は教育費や食費など支出がかさむので、若い世代の雇用を安定させ収入増に繋げる支援策が急務です。

本書は次の世代を担う人たちが、日本の来し方、行く末を見定める為に今こそ読みたい司馬氏のライフワークです。この長期にわたる思索の旅で、司馬氏が何を見出し何を思索したのか、日本の未来を切り拓くポテンシャル（潜在力）と現代の日本が歩んで来た道程を重ね合わせて考えたいですね。

令和5年7月1日

悩んでいても仕方がない

生きている証をつかもう！

人間には和やかな
笑顔があり豊かな言葉がある。
そして又、他を思いやり、いたわる
優しい心もある。お互いこの人間本来の
姿を忘れてはならない。あせらずに繰り返し
我が歩むべき道を、いくども静かに確かめ合おう。

花園保育園（K）